

筑後地方切手のつどい 2018 雑感

橋本たねひろ

平成30年8月26日開会前に生涯学習センターに到着、受付を済ませると、周りに見知った顔が幾人もおられ、快適な空間がここにはある。

10時半、松井小郡支部長挨拶に始まり、小郡郵便局長の来賓挨拶では、郵政民営化11年の話があり、九州・沖縄地方本部長伊藤氏による講演「日本切手の定常変種」が行われた。

定常変種についてポイントを挙げて説明があり、非常に収集の参考になるものであり、また、展示してあるマテリアルも圧巻であった。

コレクションに厚み深みを与える定常変種は、製造面での専門収集では必要であるが、誰でもはできない研究分野に属するので、一目でわかる大きさのものを単片で収集に加えるのは誰でもできて面白いと思う。

お楽しみ抽選会では当支部会員5名が当選したことは、当支部参加者6名であることを考えるとかなり効率よく頂いたものと思う。

昼食からは、福岡支部などの知人と情報交換や、郵趣談義に花を咲かせたが、伊藤地方本部長とは、9月8日からの全国郵趣大会の打ち合わせを簡単に行った。

展示されていた作品は3点、中島氏の「筑後国郵便局印」、松井支部長の「フランスの切手帳」と伊藤支部員の「平成30年の初日カバー」であり、「筑後国郵便局印」は中島氏の専門分野で面白かったが、北九州で豊前と筑前の一部で集めるのはかなり困難だろうと思われた。

14時から、約50人が席に着き、盆回し切手交換会が始まったが、本日は所用があり先に帰宅の途についた。

他支部の皆さんとは、スタンプショーはかたでの再会を約して別れたが、当支部からの参加者は、吉賀、橋本久義、久米、斉藤、山根そして私の6名であった。